

レジャイナ大学(カナダ)と学術交流協定を締結

本学は、2020年11月にカナダ・サスカチュワン州にある州立大学、レジャイナ大学 (University of Regina) と学術交流協定を締結した。カナダの協定校としては3校目となる。教養、ビジネス、教育、工学・応用科学、運動・健康、メディア・芸術、看護、科学、社会福祉の9学部を擁し、190以上の専攻を提供している。学生総数は約1万3千人。また、キャンパス内に3つの関連カレッジ (Campion College、Luther College、First Nations University of Canada) がある。

2021年3月には、レジャイナ大学のLanguage and Culture Programがオンラインで実施され、獨大生3名が参加した。参加学生は語学だけでなく、カナダの文化や多文化社会について学んだ。

前沢浩子国際交流センター所長は「レジャイナ大学は、特にジャーナリズム、メディア学、公共政策やビジネス等の研究が進んでおり、本学で学ぶ学生にとって良い留学先になる。また、オンライン留学も実施しており、費用を抑えて参加できる点からも学生のメリットは大きい」と語った。

国際交流センターでは、2021年度夏季休業期間も、レジャイナ大学のオンラインプログラムを実施予定。

詳細は国際交流センター (048-946-1918) まで。



レジャイナ大学のキャンパス (提供:レジャイナ大学)

オープンカレッジ特別講座(オンライン配信) 「ハプスブルク史への招待

— マリア・テレジアの時代 — 開催

3月27日、オープンカレッジ特別講座「ハプスブルク史への招待—マリア・テレジアの時代—」(主催・エクステンションセンター)をオンラインで開催した。講師は上村敏郎ドイツ語学科准教授が務め、ハプスブルク家で唯一の女性君主マリア・テレジアについて講演した。

上村准教授は講演の中で、18世紀のヨーロッパで感染が拡大していた天然痘に対して、マリア・テレジアはどのように向き合い、対処したのか、当時の資料などを提示し解説した。講演の最後にはチャット機能を使い、質疑応答を行った。

終了直後に行った受講者アンケートには「教科書では学べない内容を聴くことができ、刺激を受けた」、「天然痘と闘った当時の話は(新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する今だけに)身近に感じた」といった感想が寄せられた。今回は、オープンカレッジ特別講座として初めてのオンライン開催となった。北は北海道、南は長崎県から参加があり、280名が受講した。



(写真:講演中の上村准教授。背景はマリア・テレジアとその家族が描かれたマルティン・ファン・マイテンス作『1754/55年頃の皇帝一家の肖像』)

埼玉県SDGsパートナー登録

3月31日、本学の「埼玉県SDGsパートナー」への登録が完了した。この制度はSDGsの取り組みを自ら実施、公表する県内企業・団体等を「埼玉県SDGsパートナー」として埼玉県が登録するもので、SDGs達成に向けた具体的な行動を促進することなどを目的としている。埼玉県内の大学としては、初めての登録となった。

今回の申請にあたり、本学は重点的な取り組みとして「CO₂排出量削減」「SDGs人材の輩出」「ダイバーシティ&インクルージョンの推進と女性の活躍推進」の3点を挙げた。毎年取り組み状況を検証し、2030年の目標達成を目指す。

◆SDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)とは

2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに達成すべき世界目標。「貧困をなくそう」や「人や国の不平等をなくそう」などの17の目標と、それらをより具体的に示した169のターゲットから構成される。

◆ダイバーシティ&インクルージョンとは

国籍、性別、宗教、年齢、障がいの有無、性的指向・性自認などの違いを受け入れ、多様性を積極的に活かすこと。



2021年度入試状況総括

2021年度の獨協大学入学志願者数が確定した。一般選抜(大学入学共通テスト利用入試を含む)の志願者総数は15,670人(前年度比78.2%)で、前年度の20,050人から4,380人減少した。また、2020年12月に実施した学校推薦型選抜、総合型選抜、その他の選抜の志願者数は1,226人(前年度1,223人)で、一般選抜と合計した志願者総数は16,896人(前年度21,273人)となった。受験生の安全志向による一般選抜から総合型・学校推薦型選抜へのシフトや、受験生一人当たりの併願受験数の減少などが、今回の結果に影響した。2022年度入試に向けて、入試制度を見直すとともに、入試広報を重点化し、志願者数回復を目指す。

原成吉入試部長は「18歳人口の減少と私立大学の入学定員厳格化を背景として、受験生の大学選びはより一層慎重になりつつある。2022年度入試では受験生の視点に立った入試制度改革などを推進するとともに、改めて獨協大学の魅力を感じてもらえるよう、オープンキャンパスやSNSなどを通じて積極的にPRしていきたい」と語った。



オンラインオープンキャンパスを行う入試課スタッフ(2020年度)